

▶▶ 株式会社アイ・エス

県北のステンレス加工技術の向上！！ 最少人数稼働への地域牽引企業としての挑戦！！

アイ・エスの主力は食品や医薬品などの充填機の部品。特にノズルやバルブなど「接液（液体に接する）部品（サニタリー部品ともいう）」の機械加工が中心で、溶接やバフ研磨までの一貫生産が行える。加工品の9割をステンレスが占め、同じくステンレスを得意とする池田精工から1984年にサニタリー部門が分社した。2019年に最新型の立型マシニングセンター（MC）を導入、柔軟で高効率な生産体制を整えた。

会社概況

充填機向けステンレス部品主力に、
好調な受注を維持

アイ・エスが手がけるステンレス接液部品は「材質や仕上げ面の精度に高い品質が必要」（原田取締役工場長）な高付加価値部品。北陸地方にある業界トップクラスの飲料充填機メーカーから岡山県の同社が加工を受注。以来、中心的な協力会社として、バルブ部はほぼ独占的に供給している。

加工する部品の約5割が充填機向け。残りはリチウムイオン電池や半導体の製造装置、水素関連機器の部品など、ステンレスを中心に難加工材の部品を幅広く手がける。過去には薄型ディスプレイ製造装置の部品がよく出た時もあった。このために必要な、長尺部品を加工できる工作機械を多く保有するのも特徴。コロナ禍にあっても好調な受注を維持してきた。



本社工場。グループの池田精工の布原工場に隣接する

事業内容

マシニングセンター刷新し効率向上、
不良率低下を目指す

旺盛な受注水準を確保する同社だが、岡山県北地域の慢性的な人手不足と、それに対していかに生産性を高めるかは根強い課題だった。工作機械の老朽化更新や追加導入は随時行ってきたが、本事業を実施した2019年時点でも1台のMCが経年劣化し、剛性不足による効率低下や、従業員の熟練不足などによる不良品発生が問題になっていた。そこでものづくり補助金を活用しMCの更新を決定。古いMCはヤマザキマザック製の門型MC「FJV200」。後継機に同じヤマザキマザック製立型MC「VTCS530 / 20」を採択した。テーブルの左右軸が1950ミリメートルと、長尺部品が加工可能な新型機だ。



加工を手がけるステンレス部品。
食品や医薬品の機械には不可欠

事業成果

長い加工室を仕切って柔軟な使い方、
生産性2倍へ

長いテーブルの特徴は、長尺物だけでなく加工室を左右に仕切って柔軟な使い方ができることにある。例えば左右に円テーブルとマシンバイスを取り付ければそれぞれ違う部品を加工できる。同じ部品を加工するにせよ、片方で切削しつつもう片方で加工物を着脱するなど、小型機2台を並べたような使い方もできる。「全部1台でできるオールマイティな機械」（原田取締役工場長）。精度も向上した。工具を保持するツールホルダーは「2面拘束」という方式で、ステンレスなど難削材を加工してもびびり（工具の振動）を抑えて精度高く仕上がる。使い方にもよるが生産性は従来機の2倍に向上。今後の成長を支える機械になりそうだ。



導入したヤマザキマザックの立型マシニングセンター

ワンポイント

「津山ステンレス・メタルクラスター」のメンバー

津山市と近郊には、ステンレスなど難加工材の加工を得意とする企業が集積している。始まりは1997年に発足した共同受注組織（津山ステンレスネット）。2015年、2組織が統合し「津山ステンレス・メタルクラスター」が誕生した。現在45社が加盟、「つやま産業支援センター」が事務局となり地場金属産業の振興に努める。アイ・エスとグループの池田精工は日本のステンレス加工基地化を目指し活動している。



取締役工場長

はら だ ひさし

原田 寿さん

▶▶▶ 会社概要 company profile

設立	1984年	所在地	岡山県苫田郡鏡野町布原297-8
資本金	2000万円	T E L	0868-28-8805
代表取締役社長	山崎計夫	F A X	0868-28-8806
従業員数	35人	U R L	https://ikeda-is-com.secure-web.jp/
売上高	5億7600円(2023年3月期)		